

個人株主の皆さまにお届けする情報誌

NYK

plus

NYK プラス
2022 Autumn

Vol.
32

〔特集〕海運業の魅力
「みらい」担う若者に届け!

海運ファンを拡大中



洋上風力発電 関連事業で再エネ導入を支援

調査から建設・運営まで「海の知見」生かす

当社は、新規分野として洋上風力発電関連事業に積極的に取り組んでいます。洋上風力発電は再生可能エネルギーの主力電源化に向けた切り札と目され、日本での市場拡大が期待されます。数年後に立ち上がる大規模プロジェクトに伴って生まれる各種船舶などの需要に対して、当社グループがもつ海の知見で応えていきます。

当社は、洋上風力発電プロジェクトの調査段階から、発電所建設に必要な資機材の輸送・物流、風車の設置・据付、運転開始後の保守・運営というあらゆる段階でサービスを提供します。

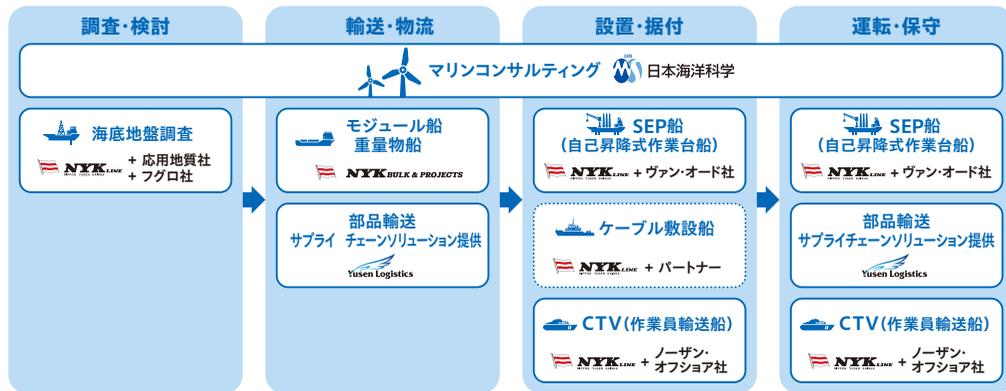
風車の建設作業などに用いられるSEP船（自己昇降式作業台船）はオランダ企業、ヴァン・オード・オフシヨア・ウィンド社と提携し、2020年代後半に投入する予定です。風車の建設やメンテナンスを行う作業員を運ぶ船であるCTV（作業員輸送船）は、スウェーデン企業ノーザン・オブ

シヨア・グループと船型開発、保有、運航で連携しています。当社は今年CTVを1隻保有して、洋上風力で先行する欧州に投入しました。船長の資格を持つ海技者を現地に派遣して運航や船舶管理の仕方を学んでおり、日本でのCTV事業に生かしていきます。また、プロジェクトを計画する際に必要になる海底地盤調査も、パートナー企業と連携し、専用船の運航を検討しています。このほかにも必要となるさまざまな船について参入を検討しています。

さらに、発電事業者が求めていることをより深く理解するために、発電事業そのものに参画することにも関心を持っています。秋田県とは再エネ事業推進などに関する包括連携協定書を締結するとともに、秋田支店も開設しました。欧州パートナーと協業することで得た知見を生かし、日本の洋上風力発電の発展に貢献していきます。

洋上風力発電関連事業における当社グループのサービスコープ

洋上 風力発電・売電事業への出資・参画



— 参入済み、または参入表明済み 検討領域



オランダのヴァン・オード・オフシヨア・ウィンド社と連携するSEP船



スウェーデンのノーザン・オフシヨア・グループと連携するCTV

■出前授業やイベントで海運を知って頂く

当社は2014年10月に「郵船みらいプロジェクト」を開始しました。外航海運は日本の貿易物資輸送の99%を担うなど社会と経済に密接に関わっていますが、残念ながら一般の方々からの認知度は高くありません。また、未来を担う若い世代が船の運航に携わる船員（海技者）という職業を知る機会が少ないのが実情です。当社は以前からも外航海運と海技者をアピールする活動を行ってきましたが、海運を一般の方々

もっと身近に感じて頂くとともに、「将来なりたい職業の一つに船員が挙げられるようになること」を目指して本プロジェクトをスタートさせました。

「郵船みらいプロジェクト」の具体的な活動は大きく三つです。一つは小中学生に向けて海技者という職業をアピールする活動で、当社の現役の海技者を小中学校に派遣して、海運業・外航船員について講義をしたり、操船シミュレーター・エンジンキットを使った体験授業を行っています。進路選択の重要な時期でもある高校生向けの取り組みも現在検

討しています。

もう一つは、世代を問わず広く海技者の仕事を知って頂く活動で、「学びのフェス」(株)毎日新聞社等主催)などの職業体験イベントなどに出展しています。

そして三つ目は船員を目指す学生の皆さんの国際交流活動です。当社がフィリピンで現地企業と共同運営する商船大学NTMAと日本の商船系大学・高等専門学校との学生交流プログラムを、2015年から実施しています(2020年以降は新型コロナウイルス感染拡大の影響で休止)。

海運業の魅力「みらい」担う若者に届け!

海運ファンを拡大中



「横浜うみ博」では自動車運搬船の実物の前で現役海技者が説明



子どもたちに大人気の教材とコラボした「うんこドリル 海の物流」



中学生向けの職業体験イベントではエンジンの組み立てを体験。船の機関士の仕事に興味津々

当社が2014年に開始した「郵船みらいプロジェクト」では、「みらい」を担っていく若い世代に海運業と社会が密接につながっていることを伝えるとともに、ステークホルダーや一般の方々を含めた皆さんに外航海運やそれに携わる海技者の仕事について知って頂き、「海運のファン」を増やしていく取り組みを行っています。これまでに現役の海技者による出前授業や船舶、港湾の見学会などの活動を展開してきました。



横浜大さん橋に
入港した
自動車運搬船



「うんこドリル 海の物流」の中身。
楽しく海運が学べるよう工夫を凝らしています



WEB版はこちら▶

https://unkogakuen.com/manabi/marine_logistics/

■「うんこドリル」とコラボ

「郵船みらいプロジェクト」も、新型コロナウイルス感染症拡大で対面での活動が行えないといった制約を受けましたが、その中でもオンラインによる出前授業を行うなど、工夫しながら活動を続けてきました。

新たな取り組みの一つが、お子さんたちに圧倒的な人気を誇る学習参考書の「うんこドリル」の「海の物流」を(株)文響社と共同で制作したことです。本件を担当したESG経営推進グループサステナビリティイニシアティブチームの高曾陽平

さんは、「昨年末に制作に着手して半年かけてリリースし、これまでに約12,000部を配布しました。当社グループ日本郵船歴史博物館、日本郵船氷川丸やイベントのご来場者、当社の社員などに手に取って頂きました。お子さんにも喜んで頂けて手応えを感じています」と語りました。

■横浜大さん橋に3年ぶりに自動車運搬船入港

新型コロナウイルスの行動制限緩和を受けた待望のリアルイベントとして、当社は8月6日・7日に開催され

た「海洋都市横浜つみ博」に出展し、この一環で横浜の大さん橋客船ターミナルに当社が運航する大型自動車運搬船が約3年ぶりに入港しました。当社がコロナ禍の前まで毎年開催していた、一般の方々が見る機会の少ない貨物船の船内見学会は、定員を大きく上回る応募を頂くなど大変人気のイベントでした。新型コロナウイルス感染拡大防止のため今回も船内見学会の再開は叶いませんでしたが、夏休みで賑わう横浜の観光地の中心に出現した巨大な自動車運搬船は多くの方々の目を惹きつけていました。

イベント当日は、大さん橋にお越しになったお子さんを含む一般の方々に対して、当社のスタッフが自動車運搬船の役割や海技者の仕事などを分かりやすく説明しました。現地での説明を担当した人事グループ海上人さん(二等航海士)は、「オンラインでの説明だけでお伝えできることはかなり限られてい

ましたが、今回は実際に船を見て頂き、こんなに大きな船があるというスケールの大きさと、世界とつながっていることを知って頂けたのはとても有意義だと思っています。特に大勢のお子さんが、巨大な壁のような自動車運搬船をきらきらした目で見上げていました。説明が終わった後も興味をもって質問してくれました」と振り返りました。

メイン会場の横浜市役所アトリウムでは講演「全長200メートル!自動車専用船がやって来る!!」を開催し、外航海運業の役割と自動車運搬船の特徴、船員の仕事などを

力を合わせ国内海上物流を支える



近海郵船株式会社

東京支店

石塚 亜沙子さん



「横浜うみ博」ステージイベントでは海運についての専門的な内容もクイズを交えて楽しく紹介



操船シミュレーターで横浜港内の航行を体験

説明しました。同じ会場で操船シミュレーターの体験イベントも行い、多くの子どもたちに横浜港での操船を体験して頂きました。会場イベントを担当した人事グループ海上人事チームの吉野恵里香さん（三等航海士）は、「講演はクイズを中心とした内容にするなど、お子さんたちを飽きさせないことを心掛けました。操船シミュレーターは達成目標などを易しくしているものの、船舶は自動車などとは操縦性能が大きく異なるため、小さいお子さん方にどれだけ楽しんで頂けるか心配でしたが、蓋を開けてみると大変好評

で、保護者の方々の反響も大きかったです。本イベントの後に学校教員の方々からのお問い合わせが増えるなど、手応えを感じています」と話しました。なお、「横浜うみ博」のイベントの運営には社内募集に手を挙げた若手を中心とする43人が参加し、海上職と陸上職などの部署を超えた社内交流の機会にもなりました。

当社が推進するESG（環境・社会・ガバナンス）経営で掲げる社会課題の解決に向けて、次世代の人材育成につながる活動に継続的に取り組んでいきます。

休日は愛犬と遊んでリフレッシュ。苫小牧勤務だった時に家族が東京からキャンピングカーごとフェリーに乗って遊びに来てくれました。



今年7月に就航した新造RORO船「しゅり」。当面の目標は「毎航海満船にすること」だ。自分の目で確かめたいことがあれば、本船が寄港する東京港・有明ふ頭にも訪れてチェックする。



北から南までRORO船を運航

近海郵船株は、「北の大地」北海道から「美ら海」沖縄まで、全国でRORO船を運航する日本郵船グループの内航定期船会社で、来年創立100周年を迎えます。RORO船とはロールオン・ロールオフ船の略で、港湾荷役機器を使わずにトレーラーに積載された貨物を自走して積み下ろしすることができます。工業製品や農産品、生活用品などを全国各地に運び、国民の生活や産業を支えています。

将来は内航海運のエキスパートに

いしづか あさこ
石塚 亜沙子さん

2019年近海郵船株入社。入社後は近海郵船北海道株に約2年間出向し、北海道の苫小牧港から茨城県の常陸那珂港向けに輸送される船積み貨物を受け付けるブッキング業務に携わる。2021年4月からは近海郵船株東京支店に配属となり、現在に至るまで、大阪支店と連携しながら東京／大阪／沖縄航路のブッキング業務を担当している。

近海郵船株に入社したきっかけは。

学生時代、雰囲気惹かれて入部したヨット部での4年間で海が好きになり、海に携わる仕事に就きたいと考えるようになりました。その中でも国内で働ける職場が良いと思い、当社を選びました。実際に入社してみると、海のように大らかな人が多い職場で、働きやすいです。

現在の仕事内容は。

お客さまの船積み貨物を受け付けるブッキング業務に携わっています。現在は東京／大阪／沖縄航路を担当しています。

この仕事の面白さは。

船を動かすためには、港湾荷役会社や共同運航する船会社など、多くの関係者の協力が必要です。学生時代に経験したヨットでは、一つの目標に向かって、皆で力を合わせて頑張ることに面白さを感じましたが、現在の仕事も協力して物流を支えるという点で通じるものがあります。

これまでの仕事で印象に残っていることは。

以前、お客さまから船積み依頼された貨物を、確認不十分

で「積載できません」とお答えしてしまい、結果的に積載できずご迷惑をおかけすることがありました。その時は、上司や仲間が私の机に集まってくれて、皆で知恵を絞って解決することができましたが、自分が何気なく言った返事や出した指示一つで、大きな混乱やトラブルを招き、物流を止めてしまふ可能性もあると痛感しました。この失敗を経て、今では言動に責任を持って仕事をするように心掛けています。

今年、担当する東京／大阪／沖縄航路に新造船「しゅり」が就航しました。

初めて新造船を見た時に、「大きくて綺麗だな」と思いました。従来船と比べて大型化したため、積載できる貨物の量が増えました。船が満船で出港できた時に、この仕事にやりがいを感じます。目の目標は「しゅり」を毎航海満船にすることです。大阪支店とも協力しながら目標の達成を目指します。将来は、ライフイベントと上手に付き合いつながりながら仕事を続け、海運のエキスパートになって会社や内航海運業界を支えていきたいです。

船の現場から魚類の観測活動に協力

当社グループは、生物多様性保全に向けた取り組みの一環として、東北大学大学院生命科学研究所の近藤倫生教授が主宰する「ANEMONE (アネモネ) コンソーシアム」へ参加し、生物多様性観測活動に貢献しています。

生物多様性へ貢献、「バケツ一杯の水」で生物調査

世界では、生物多様性の喪失を止め自然環境を回復させる「ネイチャーポジティブ」が、温室効果ガスの排出ゼロを目指す「カーボンニュートラル」に並ぶ重要な課題として注目されています。生物多様性の保全に向けては、まずはどこにどのような種類の生物が生息しているのかを「見える化」することが重要です。生物は排せつ物や皮膚など、生息場所に痕跡を残します。これには「環境DNA」と呼ばれる生物由来のDNAが含まれており、生物調査に利用されています。

環境DNAの分析手法の一つに「M i f i s h法」というものがあります。こ

れは日本で開発された手法で、魚類を対象とした調査・分析を「バケツ一杯の水」を用いて行うことができます。水をくむだけという簡便さから、研究者でない一般の人も生物調査に協力することが可能です。ANEMONEではこの手法を用いてデータを収集し、魚類の種類や分布を見える化する「ANEMONE DB (アネモネデータベース)」を運用しています。

ANEMONE DBは2017年から研究者と市民ボランティア約200人が全国861地点、4298回にわたり実施してきたM i f i s h法による調査

で構築されました。十分なデータが蓄積されたことから、今年6月から誰でも見ることができるようになりました。オープンデータとして一般に公開されています。このデータは水産資源の活用、維持管理の計画策定に役立てられることが期待されています。当社グループは



国内外で運航する船を用いて、環境DNAサンプルの採取に協力しています。昨年は東北

大学と北海道大学とともに世界初の試みとなる、外洋での環境DNA観測を実施しました。日本と豪州を結ぶ航路で43の海水サンプルを採取し、158魚種のDNAを検出することに成功しました。今年度は茨城県の常陸那珂港と北海道の苫小牧港の間で当社グループの近海郵船(株)が運航する定期船「まじっく」で、月1回の頻度で海水約20リットルを採取します。採取は、船内の消火栓用パイプラインを使って船員の手によって行われます。

当社グループは今後もANEMONE DBのデータ拡充と調査範囲の拡大に貢献していく方針です。これにより、ネイチャーポジティブな自然共生社会の実現を目指します。

バイオ燃料をタグボートで専焼、船舶で日本初

当社とグループ会社の㈱新日本海洋社は、日本初となる船舶でのバイオディーゼル燃料の100%専焼利用を開始しました。フィンランドの再生可能燃料メーカーであるNeste OYJ社製の燃料を㈱新日本海洋社が運航するタグボート「千倉丸」で使い、試験航行をはじめました。バイオディーゼルなどのバイオ燃料は、再生可能な生物由来の有機性資源（バイオマス）を原料とするもので、燃焼させる際の二酸化炭素（CO₂）排出量は実質ゼロとみなされます。当社グループは環境にやさしい船舶燃料の利用を促進し、脱炭素社会の実現に向けて貢献していきます。

（2022年7月）

東京大学に「海事デジタルエンジニアリング」の社会連携講座

当社グループの㈱MTIと、ジャパン マリニュナイテッド㈱、三菱造船㈱、古野電気㈱、日本無線㈱、BEMAC㈱、一般財団法人日本海事協会は、国立大学法人東京大学と10月1日付で「海事デジタルエンジニアリング」に関する社会連携講座を設置しました。自動車産業で先行的に取り入れられている、シミュレーションを活用した開発手法を船舶分野にも導入するための人材育成などを行うのがねらいです。この手法を用いることで、新技術の効果や問題点をシミュレーションの中で検証することが可能になります。開発工数・工期を削減できるため、脱炭素船や自律運航船など、技術的により複雑な船舶の開発や導入に当たって有効な手段として期待されます。

（2022年8月）

タグボート「魁」を改造、アンモニア燃料を使用可能に

当社は、燃料としてLNG（液化天然ガス）を使用できるタグボート「魁」を、アンモニア燃料仕様に改造します。「魁」は当社グループの㈱新日本海洋社が東京湾内で運航している船で、同じく当社グループの京浜ドック㈱で改造工事を行い、2024年度の竣工を目指します。当社と㈱IHI 原動機が国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）のグリーンイノベーション基金事業の公募採択を受けた「アンモニア燃料国産エンジン搭載船舶の開発」の一環で行うものです。アンモニアは燃焼しても二酸化炭素（CO₂）を排出しないため、地球温暖化対策に貢献する次世代燃料として期待されています。

（2022年8月）

東京コンテナ・ターミナルで最新型荷役クレーンが稼働

当社と㈱ユニエツクスNCTは、東京港・大井ふ頭の日本郵船東京コンテナ・ターミナルで、㈱三井E&Sマシナリー製の最新型トランスファークレーン4基を導入し、稼働を開始しました。このクレーンは将来的にディーゼルエンジンから水素燃料電池への換装が可能となり、国土交通省港湾局が進めているカーボンニュートラルポート構想にも合致し、国内港湾における脱炭素化を促進するものとなります。当社と㈱ユニエツクスNCTは、このコンテナ・ターミナルで全ての荷役機器をゼロエミッション化し、2040年までにカーボンニュートラルを達成する目標を設定しています。

（2022年8月）

NYKニュース

2050年のネットゼロ実現に向け新ブランドを策定

当社は、2050年の温室効果ガス（GHG）ネット・ゼロエミッションの実現に向けて新たなブランド展開を進めます。洋上風力発電関連や次世代燃料開発などのグリーンビジネスによる低・脱炭素に向けた新しい価値創造の取り組みを集約し、新ブランド「NYK GREEN EARTH」を立ち上げました。また、昨年から展開している「Sail GREEN」ブランドの対象事業を拡大しました。「Sail GREEN」はモノ運びを通じてGHG排出を低減し、お客さまのサプライチェーンに還元していく取り組みを対象としています。これらのブランドを展開し、グリーンビジネスの取り組みや物流事業の低環境負荷サービスを拡充していきます。

（2022年4月）

LNG船の長期傭船契約を相次ぎ締結

当社は、LNG船（液化天然ガス運搬船）事業で長期傭船契約を相次いで締結しました。新造船を対象に、中国最大規模のLNG購買者であるCNOOCグループ向けに6隻、カタール国営エネルギー会社QatarEnergy向けに7隻、また、フランスの電力大手であるEDFグループとは4隻目となる契約を当社関連会社が締結。九州電力㈱の子会社、大阪ガス㈱の子会社と新たに複数年の契約を1隻ずつ結びました。当社は1983年にLNG船「越後丸」を就航させて以来、LNG輸送事業のノウハウを蓄積し、ネットワークを構築してきました。それらを生かし、ESG経営を推し進めるべく、将来のゼロエミッション燃料普及までの橋渡しとなる低炭素燃料として期待されるLNGの輸送と安定供給に取り組んでいます。

（2022年5月、8月、9月）

フィリピンの商船大学NTMA、卒業式典を2年半ぶり開催

当社がフィリピンのマニラ近郊で同国の財閥であるTransnational Diversified Group（TDG）と共同運営する商船大学NYK-TDG MARITIME ACADEMY（NTMA）が6月7日、卒業式を開催しました。コロナ禍により、乗船訓練に多大な影響を受ける中で、全てのカリキュラムを2020年11月に終了した第10期134名の卒業を祝いました。NTMAは当社が求める知識や技能をもった船員の育成を目指し2007年に開校した4年制の大学で、今年創立15周年を迎えました。独自の奨学金制度を設け、大学への進学が困難な家庭環境の学生にも就学の道を開いています。（2022年6月）

省エネ装置の組み合わせで既存船のGHG排出削減

当社は、既存船について省エネ装置を最適に組み合わせることで温室効果ガス（GHG）削減に取り組みます。ナカシマプロペラ㈱、流体テクノ㈱と、船尾部の水の流れを改善し、燃費効率を向上させる省エネ装置の効果検証、最適な組み合わせの選定、既存船への導入を行う業務提携契約を締結しました。今後3年間で、当社が運航するドライバルク船のうち約50隻に最適な省エネ装置を新たに導入します。複数の装置のベストミックスに共同で取り組むことで、従来比で1%から8%の燃費効率改善とGHG排出削減効果が期待されます。

（2022年7月）

船名の付け方



都市名から命名された「箱根丸」



「Lupinus Planet」



「Tateshina (蓼科)」

日本郵船が保有する船舶の船名の付け方の一つに、頭文字を特定のアルファベットで統一するといった伝統があります。

第二次世界大戦前の船には、同じ船型の船ごとに同一のアルファベットを冠し、神社や旧国名、都市名などから命名していました。例えば、かつて欧州航路で活躍した貨客船は「箱根丸」「榛名丸」「笹崎丸」など頭文字にHを冠しており、「H型」と呼ばれていました。このような同一船型ごとに頭文字を統一する名付けは戦後も踏襲されました。

その後、船舶は特定の貨物の輸送に特化する専用船の時代となり、タンカーはT、コンテナ船はKやH、重量物船(※)はWなど船種ごとに頭文字が統一されるようになります。また、船名には顧客である荷主ゆかりの言葉を採用する船名が増え、例えばタンカーでは石油会社の製油所のある地名などが採用されました。

現在では船名の付け方は多様化していますが、大型原油タンカー(VLCC)は「Tateshina(蓼科)」など「タンカー」の頭文字であるTから始まる船名、大型LPG船は「Lupinus Planet」というように貨物にちなんでLとPの単語を組み合わせるなど、伝統は受け継がれています。現在ではビジネスの形態も多様化しており、VLCCの「Tensho(天翔)」のような造語による船名も増えています。

(※)通常の設備の船では扱えない重量物や大型の積み荷を輸送する船

海事用語 AtoZ

本誌の中でご紹介した記事の中から、わかりにくい専門用語を解説します。

【洋上風力発電】(ようじょうふうりょくはつでん)

1、13ページ

洋上に風車を建て、風を利用して電力を生み出すのが洋上風力発電です。水深が浅い海域に設置される着床式と、深いところに設置される浮体式があります。アジアでは台湾などで先行して導入が進んでいますが、日本でも海域を長期間占用できる制度が構築され、今後導入が本格化していきます。秋田県や千葉県などを皮切りに大規模な発電事業を行う事業者の選定が進んでいます。

【商船大学】(しょうせんだいがく)

4、13ページ

海洋に関する学問と科学技術の教育研究を行う大学のこと。日本では東京海洋大学と神戸大学海事科学部がこれに当たります。4年制の両大学で座学と、在学中と卒業後を合わせて計12カ月の乗船実習を修了すると、外航船に航海士や機関士として乗船するための3級海技士の国家試験を筆記試験免除で受験できます。一般大学や商船系の高等専門学校などを経て外航船員になる道もあります。

【操船シミュレーター】(そうせんしミュレーター)

4ページ

航海に用いられるさまざまな機器とコンピューターグラフィック(CG)技術を組み合わせ、船舶のブリッジ(船橋)に近い操船環境を再現する装置です。大型スクリーンにCG映像を投影することで、実際に船に乗っているような臨場感を味わえるものもあります。船員の操船訓練のほか、船舶の安全対策の立案や検証、自律運航をはじめとする新技術の開発などに利用されています。

【ブッキング業務】(ぶっきんぎょうむ)

9ページ

ブッキングとは、貨物を輸送するために、その貨物の荷主が船会社に対して特定の便や船腹を予約することを指します。ブッキングの際、荷主は船積み予定の船や積み地、揚げ地、品目、数量などの明細を船会社に連絡します。船会社は船腹の空き状況などを確認し、引き受け可能であれば荷主に対しブッキングナンバーを発番します。一連の船積み手続きにおいて起点となる重要な業務です。

【カーボンニュートラルポート】

(かーぼんにゅーとらるぽーと)

14ページ

脱炭素化に配慮した港湾機能の高度化などを通じて温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする港湾のこと。略称で「CNP」とも呼ばれます。国土交通省は、水素・アンモニアなどの輸出入・配送の拠点となる港湾施設を整備したり、船舶やトレーラーなどへ低炭素燃料を供給する機能を持たせたりする施策を通じて、日本全体の脱炭素社会の実現に貢献していく方針を掲げています。

「飛鳥II」クルーズスケジュール

神戸スペシャルクリスマス ON ASUKAII

2022年12月16日(金)～18日(日) 3日間
神戸～クルージング～神戸 旅行代金 141,000円～667,500円

神戸発 Xmas 神戸・名古屋クルーズ

2022年12月18日(日)～20日(火) 3日間
神戸～クルージング～名古屋 旅行代金 122,500円～577,000円

名古屋スペシャルクリスマス ON ASUKAII

2022年12月20日(火)～22日(木) 3日間
名古屋～クルージング～名古屋 旅行代金 137,500円～649,500円

名古屋発 Xmas 名古屋・横浜クルーズ

2022年12月22日(木)～24日(土) 3日間
名古屋～クルージング～横浜 旅行代金 122,500円～577,000円

クリスマスウィークエンドクルーズ

2022年12月24日(土)～26日(日) 3日間
横浜～クルージング～横浜 旅行代金 143,500円～679,500円

アスカクラブクルーズNext(★)

2022年12月26日(日)～28日(火) 3日間
横浜～クルージング～横浜 旅行代金 128,500円～607,000円

ニューヨーククルーズ～瀬戸内航路～

2022年12月28日(火)～2023年1月4日(火) 8日間
横浜～清水～大阪～瀬戸内海クルージング～佐世保(停泊)～クルージング～横浜
旅行代金 503,000円～2,428,000円

下記の各種キャンペーンや割引などが設定されています。

- D=おひとりD旅キャンペーン
- W=W・Aスイート体験キャンペーン
- C=Cスイートトリプルキャンペーン
- F=ファミリー割引10%
- DF=おひとりD旅+Fキャンペーン
- 子=子ども代金キャンペーン

★「アスカクラブクルーズNext」はアスカクラブ会員さまとご同行者さま限定のクルーズです。
アスカクラブへのご入会は17ページの二次元バーコードよりお手続きください。
※記載の旅行代金は2名1室利用時のお一人様の代金です。
※株主優待割引は他の割引と重複してご利用いただくことはできません。ご了承ください。その他のコースなどの詳細は下記までお問い合わせください。

飛鳥IIではお客様と乗組員の感染症予防ならびに船内衛生に万全を期するため、各種対策に取り組んでまいります。詳しくは、「飛鳥II新型コロナウイルス感染症対策プラン」をご確認ください。

https://www.asukacruise.co.jp/coronavirus_information/



アスカクラブ会員サイト 「My ASUKA CLUB」開始



飛鳥II (撮影: 中村武弘)

新規登録キャンペーン実施中

乗船時にご使用いただける
デジタル船上クーポン3,000円分を
全員にプレゼントいたします。



2022年末までに登録の方が対象

ご登録はこちら

【My ASUKA CLUB オープン記念】
飛鳥クルーズ タイプ診断

My ASUKA CLUB オープン記念として「飛鳥クルーズ タイプ診断」を実施しています。
質問に答えるだけであなたにあったクルーズの楽しみ方をご紹介します。

「飛鳥クルーズ タイプ診断」はこちら
<https://voyage.asukacruise.co.jp/asukatype>
※診断の際はMy ASUKA CLUB でご利用になれるメールアドレスと同一のものでお願いいたします。

お問い合わせ



郵船クルーズ株式会社
<https://www.asukacruise.co.jp>

TEL 045-640-5301
FAX 045-640-5366
営業時間 / 10:30～17:00
土・日・祝を除く

※新型コロナウイルス感染防止等の観点により
営業日・時間が変更となる場合がございます。

郵船クルーズではこの度、アスカクラブ会員サイト「My ASUKA CLUB」をスタートいたしました。環境負荷の軽減を考慮し、優待券のデジタル化など、会員さま向けのさまざまなサービスを本サイト上でご提供いたします。

「My ASUKA CLUB」は飛鳥クルーズの乗船有無にかかわらず、2歳以上の方ならごなたでもご登録いただけます。すでにご入会済みの会員さまにも、ぜひこの機会に「My ASUKA CLUB」へのご登録をおすすめいたします。

「My ASUKA CLUB」ではアスカクラブ会員の皆さま向けに、これまで以上にパーソナルなサービスをお届けいたします。どうぞご期待ください。

NYKと半導体のはなし

パソコンやスマートフォンといった電子機器から自動車まで、いまや私たちの生活になくてはならないのが半導体です。半導体は、主に中国や台湾、韓国といったアジア諸国で作られ、さまざまな製品の頭脳として組み込まれています。その半導体を作る製造装置は振動や衝撃、温湿度による影響を考慮し、航空輸送を利用するケースが大半です。当社グループの日本貨物航空㈱はボーイング747型の大型貨物機を活用し、大型で繊細な荷役が求められる半導体製造装置を安全に輸送しています。



※表紙は半導体のイメージ画像



日本郵船